

なぜ？なぜ？先生

～みんなの不思議～



「同発菩提心 往生安楽国」
どうほつぽだいしん おうじょうあんらくこく
つてなあに？

今月のこの言葉は、「幼児のおつとめ」の「回向」の後半部分で、「同じく菩提心を発して 安楽国に往生せん」と読みます。

「菩提心」というのは、仏教では「悟りを求めると共に、世の人々を救おうとする心のこと」ですが、ここでは「阿弥陀さまの国（浄土）に生まれたいという心をおこして」という意味で、「往生安楽国」というのは、その「阿弥陀さまの国に生まれ行きましょう」ということです。

私たちが生きていく中で、一番つらいのは「孤独」に陥ることです。嬉しいにつけ悲しいにつけ、そのことを語れる人が一人もいなければ、生きていることがとても苦しく感じられます。

また、人生はしばしば旅をすることにたとえられますが、自分の歩いている道がどこに続いているのか、言い換えるといのちの帰っていく世界を見いだせなければ、常に不安がつきまといます。それは、自分の帰る場所を持たないということに起因しています。

そのような私たちに、「あなたのいのちの帰ってくるのはここだ」とよびかけてくださるのが、阿弥陀さまです。

「奉讃文」に、「み仏さま いつでもどこでもそばにいてくださって ありがとうございます」とありますが、阿弥陀さまは、いつでもどこでも、私の称える「南無阿弥陀仏」の声となって躍動し、私にはたらきかけておられます。ですから、念仏に生きる人生には孤独ということはないのです。

子どもたちには、「同発菩提心 往生安楽国というのは、みんなと一緒に阿弥陀さまの国に会いに行きますという意味だよ」と教えてください。